

第2章 足立区民の健康と糖尿病対策中間評価

1 区民の寿命の実態 「健康寿命は都との差が1.5歳に縮まる」

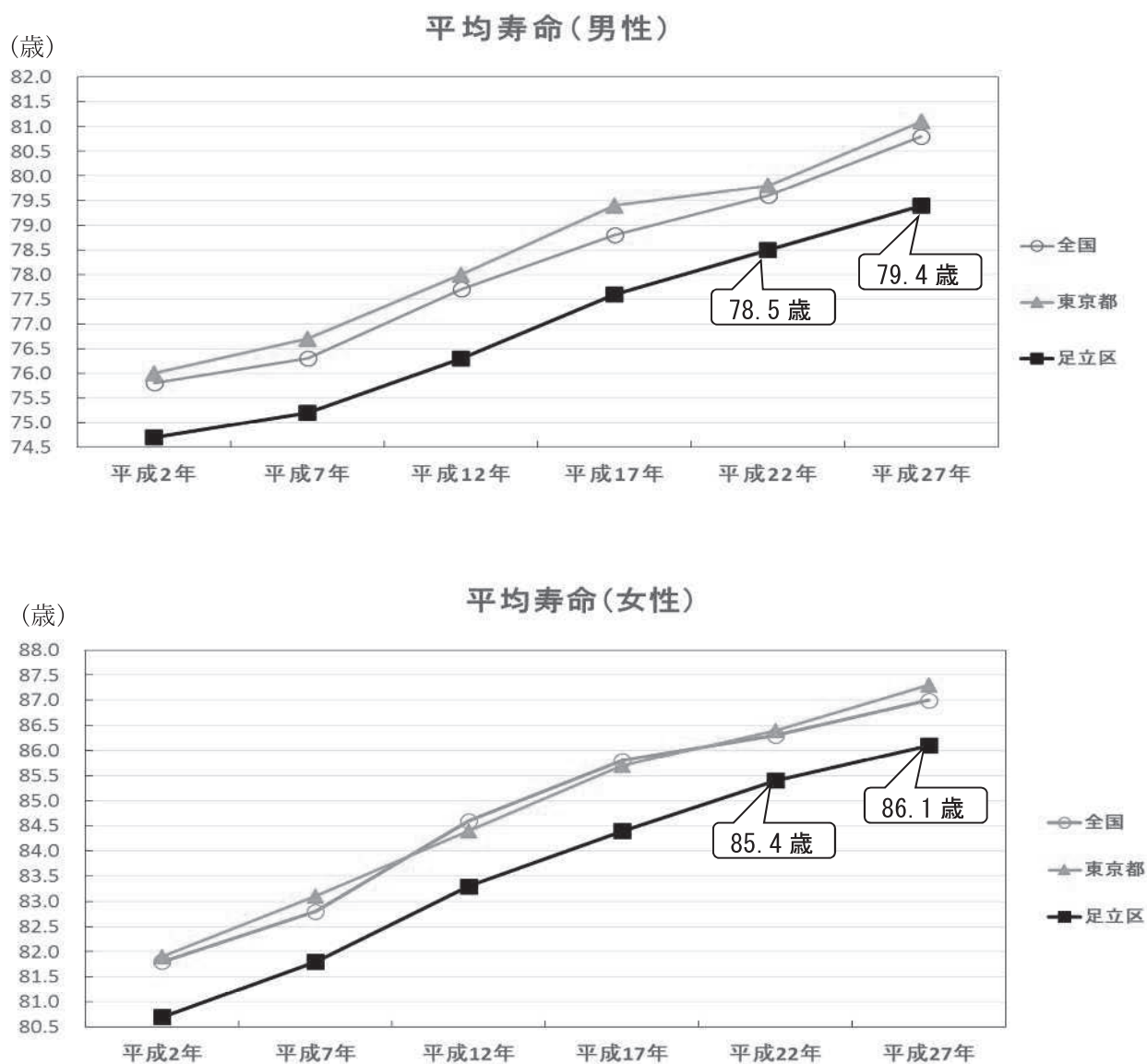
平均寿命を国や都と比べると、足立区は男女ともに短く、特別区の中でも最下位となっています。健康寿命においても、同様に短くなっていますが、平成22年に2歳あった東京都との差が1.5歳に縮まりました。

【表1】足立区と国・都との寿命比較

	足立区		東京都		全国	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
平均寿命 (H27 年)	79.4	86.1	81.1	87.3	80.8	87.0
健康寿命 (H27 年) ※	77.5	82.3	79.0	83.5	79.3	83.8

※「平均自立期間」を「厚生労働省科学研究 健康寿命算定プログラム」によりH30年3月末に足立区が算出

【グラフ1】足立区の平均寿命の推移 （出典 市区町村別生命表より）

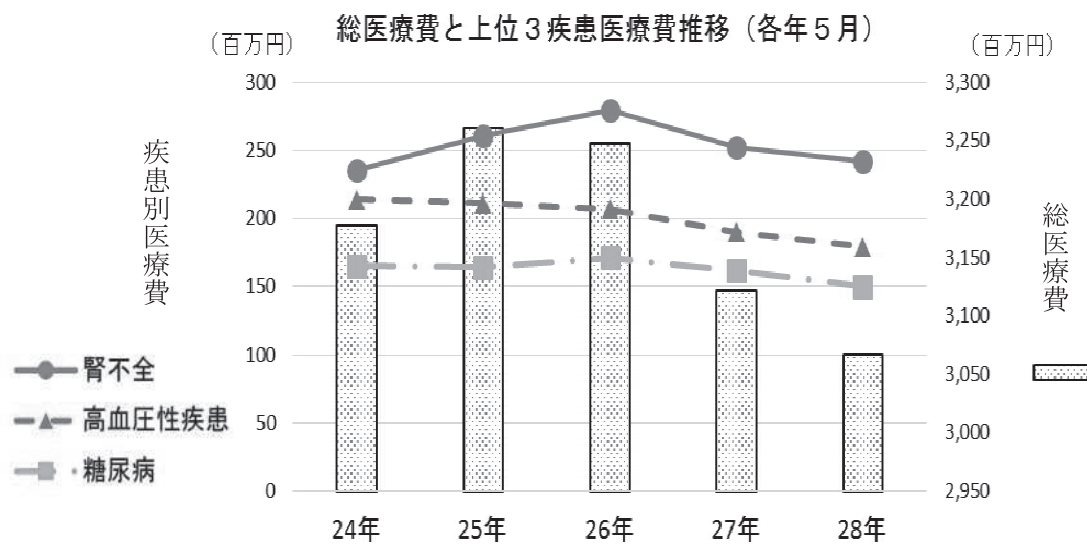


2 国民健康保険医療費の支出状況の特徴

(1) 国民健康保険医療費支出額（各年5月） 「医療費総額は減少傾向」

国民健康保険の総医療費は被保険者の減少により平成25年をピークに、また腎不全と高血圧性疾患医療費は26年をピークに年々減少しています。しかし、糖尿病医療費はほぼ横ばいとなっています（グラフ2）。

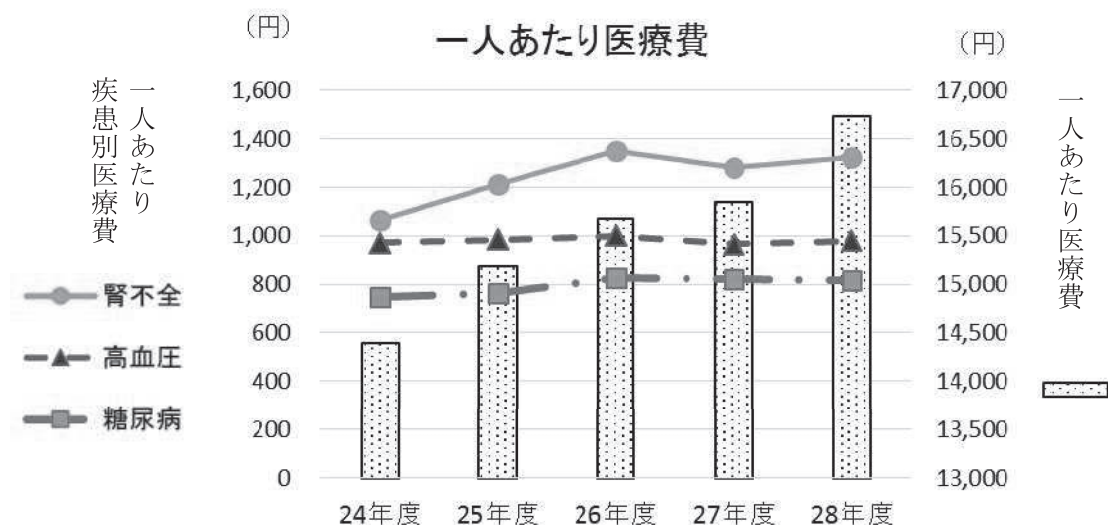
【グラフ2】



出典：東京都国保連特定健診・保健指導支援システム

一方で、総医療費を国民健康保険被保険者数で割った一人あたり医療費は年々増加しています。また、被保険者一人あたりの腎不全、糖尿病医療費も緩やかに増加傾向にあります（グラフ3）。

【グラフ3】



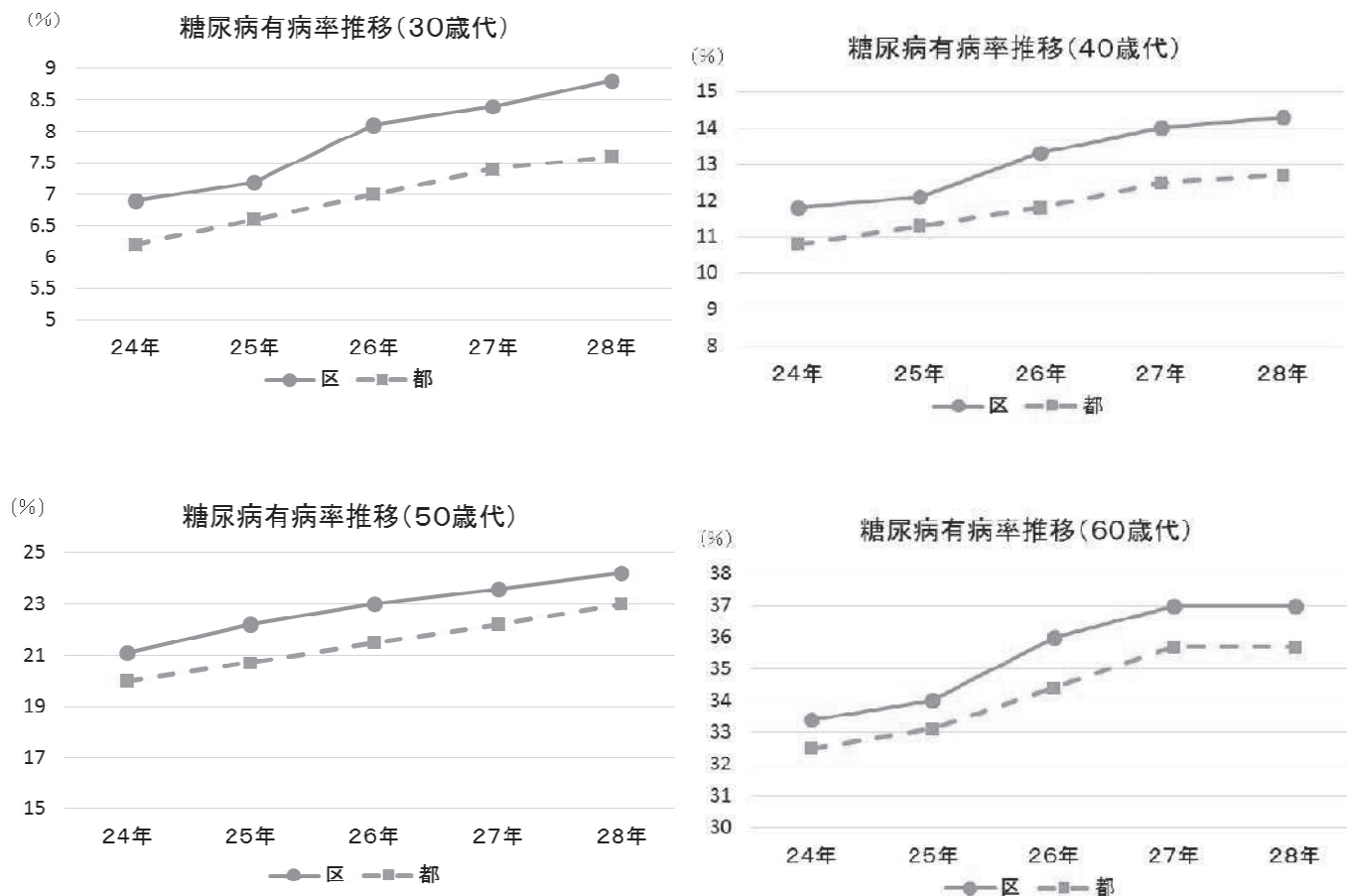
出典：東京都国保連特定健診・保健指導支援システム

(2) 国民健康保険被保険者の糖尿病有病率^{※1、2}の推移

「30、40歳代の糖尿病有病率は都との差が拡大」

足立区の国民健康保険の糖尿病有病率^{※1、2}の推移を見ると、30～60歳代の全ての年代で都の有病率より高く、特に30、40歳代では年々都との差が開く傾向にあります（グラフ4）。

【グラフ4】



出典：東京都国保連特定健診・保健指導支援システム

※1 有病率とは全人口の中で、糖尿病と診断されている者の割合

$$\text{糖尿病有病率 (\%)} = \frac{\text{糖尿病患者数}}{\text{全人口}} \times 100$$

※2 国民健康保険糖尿病有病率とは生活習慣病患者数の推移帳票の足立区の国民健康保険被保険者の中で、糖尿病患者数の推移帳票の各患者と診断されている者の割合

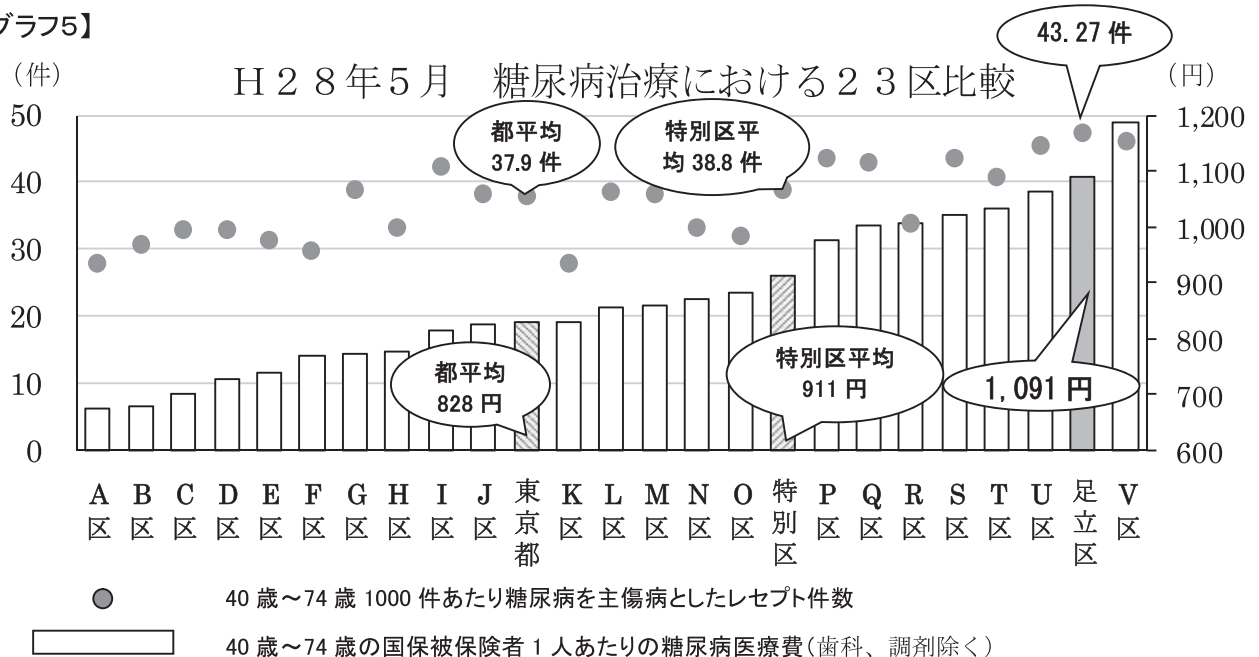
$$\text{足立区国保糖尿病有病率 (\%)} = \frac{\text{生活習慣病患者数の推移帳票の糖尿病患者}}{\text{足立区の国民健康保険被保険者}} \times 100$$

3 足立区の糖尿病の現状

(1) 糖尿病治療における23区比較（平成28年5月分）「都・特別区との差は依然乖離^{かいり}」

40～74歳の足立区国民健康保険被保険者において、レセプト（医療費の明細書）1,000件あたりの糖尿病を主傷病とした件数は、23区で最も多く、被保険者一人あたりの医療費も上位に位置しています（グラフ5）。

【グラフ5】

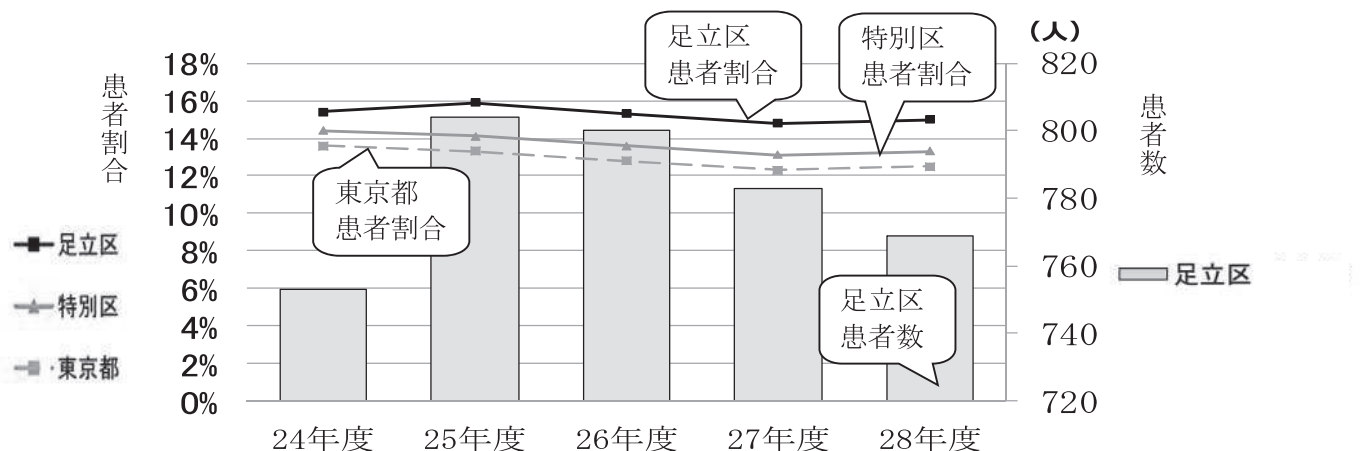


出典：東京都国保連特定健診・保健指導支援システム

(2) 糖尿病で人工透析を行っている患者割合の年次推移「患者割合は減少傾向」

国民健康保険の年間200万円以上医療費がかかっている患者のうち、糖尿病で人工透析をしている患者^{*}数、患者^{*}割合はともに減少しています。しかし、都、特別区と比較すると依然高い状況にあります（グラフ6）。

【グラフ6】糖尿病で人工透析を行っている患者割合（年次）



出典：東京都国保連「特定健診・保健指導支援システム」特定健診統計分析レセプト分析（年次）

^{*}患者とは年間医療費200万円以上の被保険者の中で、糖尿病でかつ人工透析を行っている者

4 中間評価年における成果指標一覧

	成 果 指 標		実績	計画策定時点の実態及び目標値		
			2016年度 (平成28年度) 結果	2013年度 (平成25年度) 実態	2016年度 (平成28年度) 目標値	2022年度 目標値
1 野菜から食べやすくなる環境づくり	(1) ベジファーストが糖尿病予防に効果があることを知っている区民の割合 (H25～27年度)		79.2% (平成27年度結果)	72.5%		
	野菜から食べている区民の割合 (H28年度～)		64.70% (平成28年度結果)			80%
	(2) 区民の1日あたりの推定野菜摂取量		220g ※①	—	280g	350g
	(3) ベジタベライフ協力店数		607店舗	82店舗	600店舗	600店舗
2 良い生活習慣の定着 乳幼児期からの生活習慣の定着	(1) 小児生活習慣病予防健診有所見者割合 (低減目標)	男子	16.65%	17.68%	16.0%	14.0%
		女子	26.77%	24.61%	21.0%	18.8%
	(2) 肥満の子どもの割合 (低減目標)	3歳児	1.06%	1.80%	減少傾向へ	減少傾向へ
		5歳児	3.46%	3.70%	減少傾向へ	減少傾向へ
3 せない取り組み 糖尿病を重症化させない取り組み	足立区国民健康保険	(1) 40～74歳の特定健診受診者でヘモグロビンA1c 7%以上の割合 (低減目標)	4.77% ※②	4.69%	4%未満	3.5%
		(2) 40～74歳の特定健診受診者でヘモグロビンA1c 8%以上の割合 (低減目標)	1.66%	1.67%	1.5%	1%未満
		(3) 年間200万円以上かかっている被保険者のうち糖尿病で腎透析の患者割合 (低減目標)	14.80% (H27年)	15.90%	15%未満	13%未満

目標達成項目

※目標を達成していないが、国や他都市の調査等の結果から改善していると評価できる項目

- ① 東京大学実施の「まちと家族の健康調査」の結果では、2013-2014と2015-2016年では他都市は減少したが、足立区の子どもの野菜摂取量は増加している（参考P14）。
- ② 40～74歳の足立区国民健康保険特定健診結果のヘモグロビンA1c 7%以上の割合の年次推移は、国の国民健康・栄養調査の同年代のヘモグロビンA1c 7%以上の割合の年次推移と比較すると着実に減少している。国が5%前後で横ばい、区は5.3→4.7%へ減少（参考P21）。